

電気電子工学専攻 授業科目関連表

科目群	1年		2年		
	前期	後期	前期	後期	
専攻指定	システム工学PBL 特論 マテリアルサイエンス特論 電気電子工学特別講義 A I	電気電子工学特別講義 A I	(システム工学PBL 特論) (マテリアルサイエンス 特論) 電気電子工学特別講義 A II	電気電子工学特別講義 A II	
研究科共通	知的財産権出願特論 工学展望特論(社会人向け) 論文発表演習  大学院・国内インターンシップ 大学院・長期インターンシップ 国際特別講義I 国際特別講義II	I S O 学特論 ベンチャービジネス特論 論文発表演習 企画力養成演習 大学院・国内インターンシップ 大学院・長期インターンシップ 国際特別講義I 国際特別講義II	(工学展望特論(社会人向け))  (論文発表演習)  (大学院・国内インターンシッ プ) (大学院・長期インターンシッ プ) (国際特別講義I) (国際特別講義II)	(論文発表演習)    (大学院・国内インターンシッ プ) (大学院・長期インターンシッ プ) (国際特別講義I) (国際特別講義II)	
国際教育科目	コミュニケーション英語 国際会議発表演習 学術英語論文発表 国際インターンシップ 短期留学	コミュニケーション英語 国際会議発表演習 学術英語論文発表 国際インターンシップ 短期留学	(コミュニケーション英語) (国際会議発表演習) (学術英語論文発表) (国際インターンシップ) (短期留学)	(コミュニケーション英語) (国際会議発表演習) (学術英語論文発表) (国際インターンシップ) (短期留学)	
研究 領域 教育 科目	研究領域A デバイス・メカトロニクス	電機制御特論 I ※ 電機制御PBL演習 II  制御工学特論 II ※ 電気エネルギーシステム特論※	電機制御PBL演習 I 電機制御特論 II ※ 制御工学特論 I ※	制御工学PBL演習 I   電気エネルギーシステムPBL演習	
	研究領域C 情報処理・情報通信	情報処理PBL演習 II 通信システム特論 I  計算機工学PBL演習 I 計算機工学特論 II ※	情報処理特論※ 通信システムPBL演習 I  通信システム特論 II  計算機工学特論 I ※	情報処理PBL演習 I (通信システム特論 I) 通信システムPBL演習 II   (通信システム特論 II) 計算機工学PBL演習 II	
	研究領域E ナノサイエンス・ナノテクノロジー	半導体工学特論※ 有機エレクトロニクス特論※  電子デバイスプロセス設計特論※ 電子デバイスプロセス設計PBL演習 物性物理学PBL演習 物質情報学特論 ナノ材料設計特論	オプトエレクトロニクスPBL演習 高周波フォトニクスPBL演習 誘電体工学PBL演習  物性物理学特論 物質情報学PBL演習 ナノ材料設計PBL演習	オプトエレクトロニクス特論※ 先端マイクロ波フォトニクス特論※  量子エレクトロニクスPBL演習  (物性物理学PBL演習) (物質情報学特論) (ナノ材料設計特論)	半導体工学PBL演習 有機エレクトロニクス演習 誘電体工学特論※ 量子エレクトロニクス特論※  (物性物理学特論)
	研究領域F 先進物質・先進材料	磁性体工学特論		磁性体工学PBL演習	
創成工学教育科目	生産管理論特論 I ものづくり管理工学特論 実践企業学 電気システム設計演習	生産管理論特論 II 造船工学特論 先輩から学ぶ先端科学技術	   (電気システム設計演習)		
特別研究	電気電子工学特別研究 I	電気電子工学特別研究 II	電気電子工学特別研究 III	電気電子工学特別研究 IV	

※ 隔年開講科目

コア科目

工学研究科電気電子工学専攻

科目群	到達目標	ディプロマ・ポリシー(DP)との関連						
		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
専攻指定	学生は、電気電子工学分野のエンジニアとして多角的視点から論理的に物事を考えることができる。	○			◎			○
	学生は、電気電子工学に関する知識を実際の技術や製品と関連づけることができる。	○			◎			○
研究科共通	(研究科の方針にあわせる)		◎	○	○	○	◎	○
国際教育科目	(研究科の方針にあわせる)			◎		○		○
研究領域教育科目	<b>研究領域A</b> ロボティクス・メカトロニクス 学生は、ロボティクス・メカトロニクス分野に関して、その主要な技術・理論を説明することができる。 学生は、ロボティクス・メカトロニクス分野に関する知識を、実際の技術や製品と関連づけることができる。	◎			○			○
	<b>研究領域C</b> 情報処理・情報通信 学生は、情報処理・情報通信分野に関して、その主要な技術・理論を説明することができる。 学生は、情報処理・情報通信分野に関する知識を、実際の技術や製品と関連づけることができる。	◎	○		○			○
	<b>研究領域E</b> ナノサイエンス・ナノテクノロジー 学生は、ナノサイエンス・ナノテクノロジー分野に関して、その主要な技術・理論を説明することができる。 学生は、ナノサイエンス・ナノテクノロジー分野に関する知識を、実際の技術や製品と関連づけることができる。	◎	○		○			○
	<b>研究領域F</b> 先進物質・先進材料 学生は、先進物質・先進材料分野に関して、その主要な技術・理論を説明することができる。 学生は、先進物質・先進材料分野に関する知識を、実際の技術や製品と関連づけることができる。	◎	○		○			○
創成工学教育科目	(研究科の方針にあわせる)		◎		○		○	○
特別研究	学生は、電気電子工学分野に関するさまざまな知識をもとに、与えられた課題を期間内に解決することができる。	○	○	○	◎	◎	○	○
	学生は、電気電子工学分野に技術が実社会に与える影響を理解し、与えられた課題に対し適切な解決方法を選択できる。	◎	◎		○		◎	◎
	学生は、自らのアイデアをプレゼンテーションし、それをもとに議論することができる。			◎	◎	◎		◎
		・専門知識:自然科学、情報技術、並びに電気電子工学に関する深い専門知識を修得し、それらの知識を高度に応用できる能力を持つこと。	・デザイン能力・ものづくり能力:電気電子工学の専門知識を基にして、的確に関連情報収集を図り、課題を解決するための高度な設計手法を提案でき、また、それに基づいて"ものづくり"を行う実践能力を修得すること。	・高度なコミュニケーション能力:研究内容や調査結果を文書で表現し、他人に説明できる能力、および他人と議論を行う高度な能力を修得すること。専門分野の英文文献を深く理解でき、その内容を的確に説明できること。	・自主的継続的学習能力:関連分野に強い関心を持ち、多くの未知な分野があることを理解して、自主的、継続的な学習が必要であることを認識できること。	・制約下での仕事の推進・統括:電気電子工学分野の各種技術に関して自ら設定した課題について、課題達成までの作業手順を自ら計画し、計画した手順を期限までに課題達成を成し遂げること。	・技術者倫理:電気電子工学の専門知識を修得し、科学技術が社会や自然環境に及ぼす影響を高度に理解して責任ある専門技術者として行動できること。	・多面的思考能力:多様な文化、習慣や考え方の存在を理解し、他者の意見を尊重して様々な場面で課題解決のための高度な判断ができること。なお、その評価は通常の学習成果と研究過程・成果から客観的かつ厳密に行います。